様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２０ 日現在

機関番号：３４５１７
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2020～2022
課題番号：２０Ｋ２３１８１

研究課題名（和文）看護師が行う慢性疾患を抱える移行期患者への意思決定支援の実施状況調査

研究課題名（英文）Survey among nurses of the implementation status of decision-making support for transitional patients with chronic diseases

研究代表者
福井　美苗（FUKUI, Minae）

武庫川女子大学・看護学部・助教

研究者番号：７０８８２２０７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,800,000円

研究成果の概要（和文）：第一研究において、小児看護専門看護師10名に対し、実施している意思決定支援についてインタビュー調査を行った。質的帰納的分析を行い、50項目の意思決定支援が明らかになった。
第二研究では、50項目の意思決定支援について、第二研究とし、全国の小児が入院する病院の看護師704名を対象に、実践の程度と意義の程度について４段階のリッカート尺度を用いて調査を行った。実践の程度と意義の程度の得点についてMann-WhitneyのU検定によって分析し、47項目において有意差が認められた。また、実践の程度においては病棟看護師の外来経験の有無において、39項目において有意差が認められた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本邦において慢性疾患をもつこどもに対する意思決定能力を高めるための支援（意思決定支援）の具体的方法を学術的に明らかにした報告はなかった。そこで、第一研究では、小児看護専門看護師が行っている意思決定支援を明らかにした。
また第二研究では、小児と関わる看護師を対象に意思決定支援の実践の程度と意義の程度の差を明らかにした。これにより、小児と関わる看護師を対象とした意思決定支援についての教育や医療環境の改善が考えられ、慢性疾患をもつこどもへの意思決定支援の質が向上に寄与されるだろう。

研究成果の概要（英文）：In the first study, 10 pediatric nurses were interviewed regarding their decision-making support. A qualitative inductive analysis revealed 50 decision-making aids.
In the second study, 50 items pertaining to decision-making support were evaluated, targeting 704 nurses working in facilities where children were hospitalized nationwide. A Mann-Whitney U test was used to analyze the degree-of-practice and degree-of-significance scores, and significant differences were found in 47 items. With regard to degree of practice, significant differences were found in 39 items; this depended mainly on whether or not ward nurses had prior experience with outpatients.

研究分野：看護学

キーワード：意思決定　成人移行期支援

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

近年、医療の進歩に伴い、小児期発症疾患を有し成人期を迎える患者は 90％以上いる(Blum,1995)。そのため小児期に疾患を発症した子どもの多くは、疾患をもちながら成人期へ移行する時期（以下、移行期とする）を経験する。また、発達途上にあるこどものセルフケアは、こどもの療育者が補完することが不可欠であり、成長発達と共にこどものセルフケア能力は成熟する(片田,2019)。セルフケア能力と同様に子どもの意思決定能力も小児期には養育者の補完が必要であるが、成長発達と共に成熟していく。一般に意思決定の欲求が増える時期は思春期であり、意思決定は重要な思春期の発達課題であるといわれている(Bonnie H,2009)。しかし、先天性心疾患の患者が成人後も治療上の意思決定は親が継続している症例報告もあり(岩崎ら,2019)、慢性疾患をもちながら子どもから成人になる患者は意思決定能力が成熟していないことがある。つまり、意思決定の欲求が増える思春期と移行期は同時期であることから、移行期支援として患者の意思決定能力を高める支援（以下、意思決定支援とする）は必要不可欠である。しかし、少子化による患者の減少、病院施設における人員体制や医療体制の違いなどの理由により、移行期にある患者に対する意思決定支援の質にはばらつきがあり、有用性の認められた支援方法は確立していない。

２．研究の目的

(1)本邦の看護師が移行期患者に必要だと思う意思決定支援・実際に行っている意思決定支援、また意思決定支援を実施するための促進因子と阻害因子を明らかにすることを目的とした。

(2) 小児と関わる看護師を対象にアンケート調査を行い、慢性疾患を抱える子どもへの意思決定支援について「日々の看護の中での実践の程度」および「意思決定支援として認識している意義の程度」を明らかにすることを目的とした。

３．研究の方法

(1)日本看護協会ホームページの専門看護師登録者一覧に掲載されており、現在病院またはクリニックで勤務している小児看護専門看護師を対象に、インタビューを行った。インタビューにより収集したデータは質的帰納的分析を行い、小児看護専門看護師が行う移行期にある患者への意思決定支援を明らかにした。

(2) 医療介護情報局の医療施設データベース医療機関届出情報による、小児が入院する病棟のある病院 857 病院で働いている、小児看護を実践している看護師を対象とし、無記名自記式の Web アンケートを用いた横断調査をおこなった。50 項目の意思決定支援についてそれぞれ、「日々の看護の中での実践の程度」および「意思決定支援として認識している意義の程度」を調査した。実践の程度と意義の程度の差を Mann–Whitney の U 検定にて分析を行った。

(3) 医療介護情報局の医療施設データベース医療機関届出情報による、小児が入院する病棟のある病院 857 病院で働いている、病棟で働いている小児を対象とする看護師を対象とした。対象者を、外来経験の有無で 2 群（経験有り、外来応援業務を含む/経験無し）に分け、各群の実践状況の差を Mann–Whitny のＵ検定を用いて分析を行った。

４．研究成果

(1)小児看護専門看護師が行う意思決定支援は 312 コードが抽出され、50 サブカテゴリ、14 カテゴリが分類され明らかになった。14 カテゴリは以下【患者の意思を育み、意思を出せるようにする】、【患者と保護者の要望に合わせながら、患者本人に病気の知識を身につけてもらう】、【患者が病気のことを自分のこととして捉えられるようにする】、【患者が自分の病気や症状、困り事を誰かに伝えられるようにする】、【患者が大人になった時を想像してもらい、今どうしたらいいか一緒に考える】、【患者のセルフケアにおいてできることを少しずつ増やす】、【将来の課題を乗り越えるために必要な患者の自己効力感を高めるようにする】、【保護者の不安を軽減し、今までの頑張りを認める】、【保護者と患者の成長を実感してもらい、見守るようにしてもらう】、【患者が意思決定できるように環境を整え、決定したことを応援する】、【医療者が保護者と患者の関係性やセルフケアのバランスを整える】、【医療者が意思決定やセルフケアについて支援のタイミングを見極める】、【医療者が患者の意志決定や自立を妨げないようにする】、【他職種・成人科と調整する】であった。

(2) 704 名から回答を得られた。小児看護を実践している看護師において意思決定支援 50 項目中、47 項目で、「意義の程度」が「実施の程度」より有意に高得点であった。

(3)530 名の回答を得た。病棟で働いている看護師の中で、外来経験無し群よりも有り群の方が 39 項目において有意に実践していた。

〈引用文献〉

① Blum RW. Transition to adult health care: Setting the stage. J Adolesc Health . 1995;17:3-5

② Bonnie Halpern-Felsher. Adolescent Decision Making: An Overview. The Prevention Researcher.2009;16(2):3-7.
③ 岩崎美和他.当院における移行期支援外来の取り組みと課題 ～他疾患と比較した循環器疾患患者の特徴に焦点を当てて～.日本成人先天性心疾患学会雑誌.2019;8(2):33-41.
④ 片田範子編集.こどもセルフケア看護理論.第 1 版.医学書院.2019：29.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 福井美苗、小笠原史士、北尾美香、本田順子、藤田優一
２．発表標題 慢性疾患をもつ移行期患者の意思決定能力を高めるために小児看護専門看護師が実践している看護
３．学会等名 第32回日本小児看護学会学術集会
４．発表年 2022年

１．発表者名 M. Fukui, H. Ogasawara, M. Kitao, J. Honda, Y. Fujita
２．発表標題 Differences in Practice and Degree of Significance in Support to Enhance Decision-making Abilities for Pediatric Nurses in Japan
３．学会等名 26th East Asian Forum of Nursing Scholars（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 福井美苗、小笠原史士、北尾美香、本田順子、藤田優一
２．発表標題 慢性疾患患児への意思決定支援の実施状況　小児が入院する病棟看護師の外来経験での比較
３．学会等名 第33回日本小児看護学会学術集会
４．発表年 2023年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関